

首都圏地震観測網 (3.1 参照)

2009年度設置観測点例

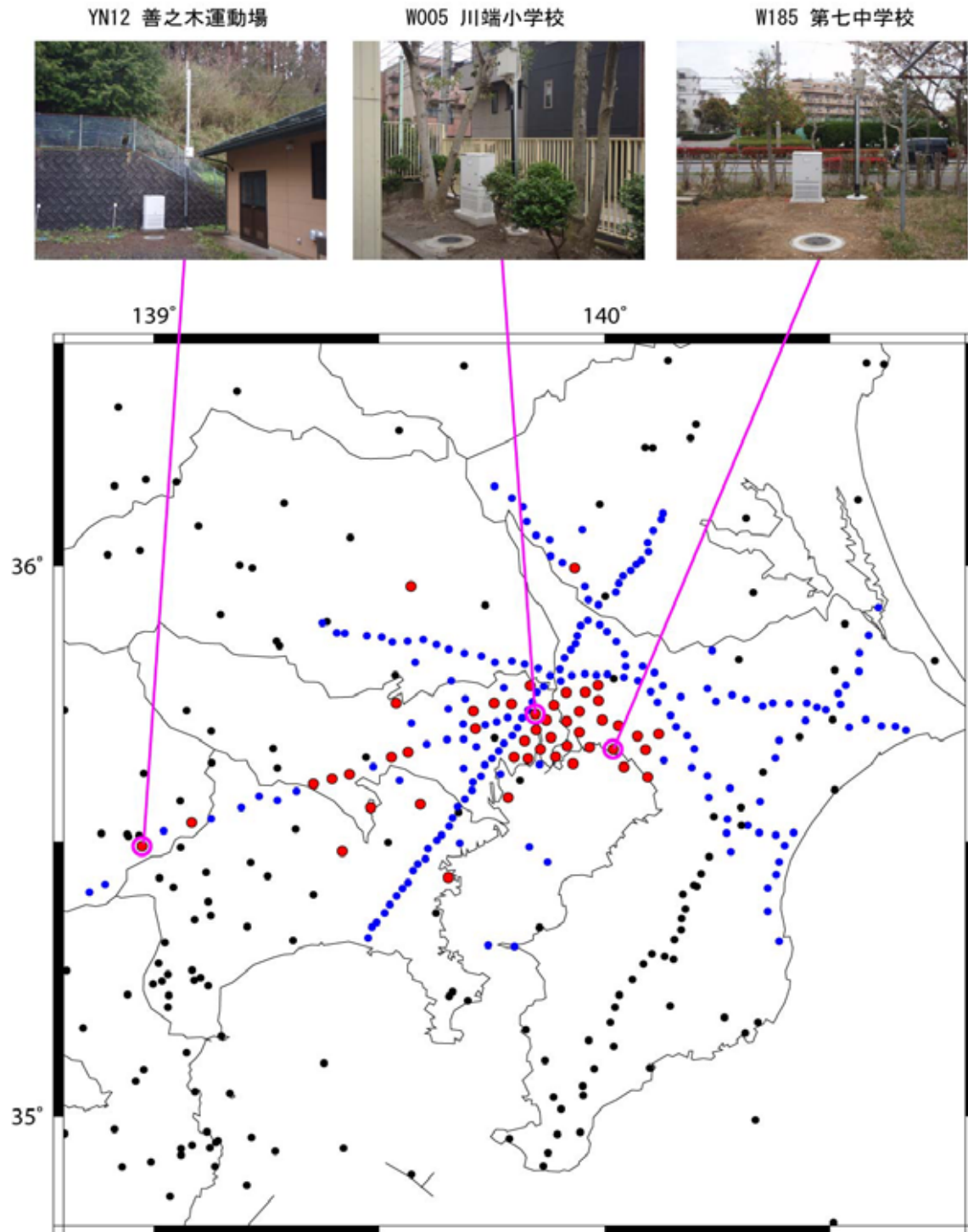


図1 2009年度設置観測点 (●：2009年度設置、●：MeSO-net、●：周辺観測点)

制御震源を用いた地殻構造調査 (3.2 参照)

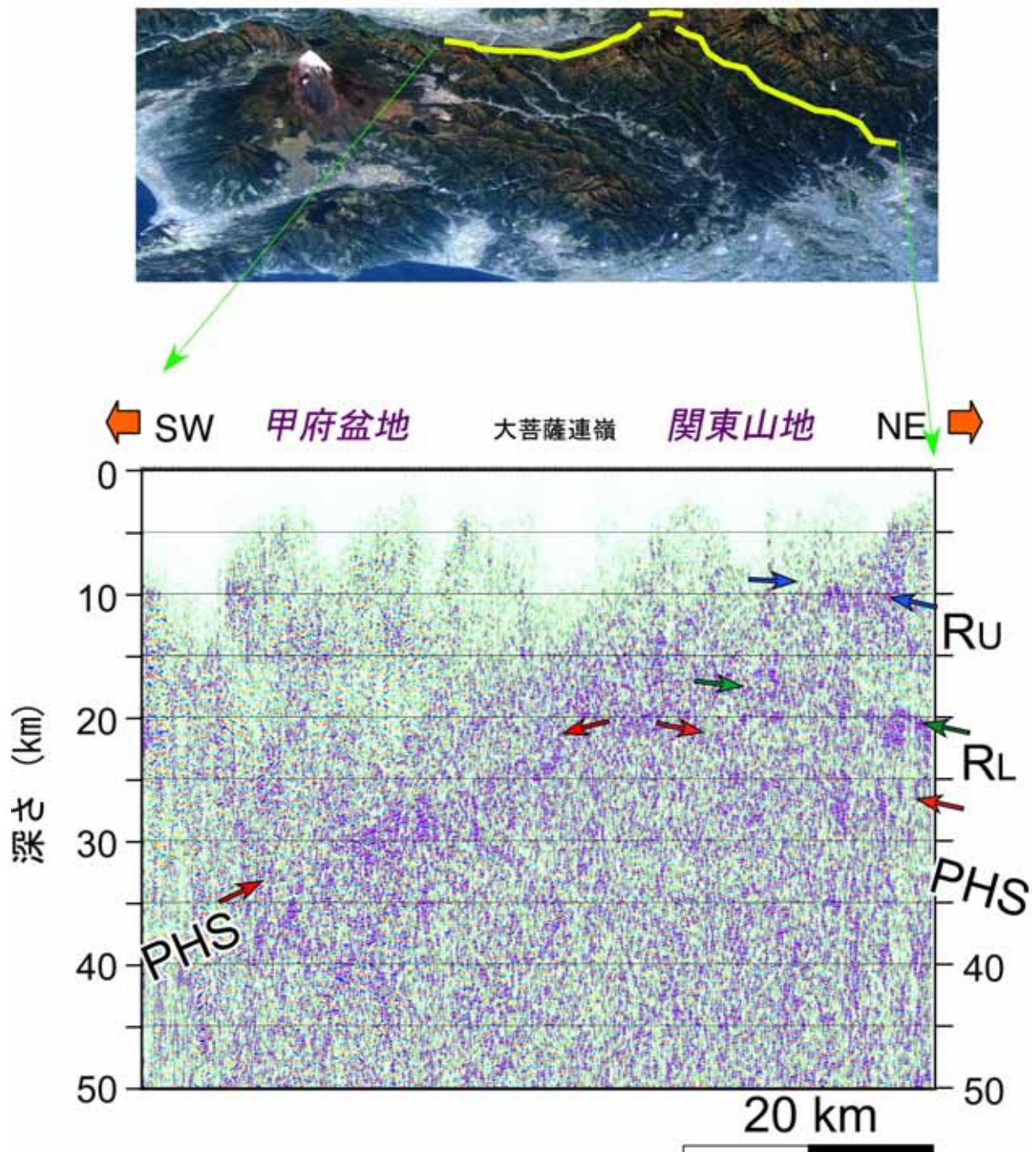


図. 関東山地から甲府盆地にいたる「飯能-笛吹測線」における低重合反射法地震探査断面。

PHS: フィリピン海プレート、RL: 下部地殻の反射面、RU: 上部地殻の反射面。

フィリピン海プレートは大菩薩連嶺下に背斜軸をもつような折れ曲がりを示す。

軸部付近が関東地震の震源域の西縁となる。

RL は丹沢ブロックの北縁を限る藤の木-愛川線の深部延長である。

液状化痕等による首都圏の古地震の調査研究 (3.3.4 参照)



写真. (上・中) 三浦半島江奈湾の入り江干潟。(下) ジオスライサー掘削調査で採取された試料。
泥質砂層堆積物中に挟まれた、貝殻片・砂層・小礫・粗粒砂からなる津波堆積物。

強震動予測手法と地下構造モデルに関する調査研究 (3.4.1 参照)

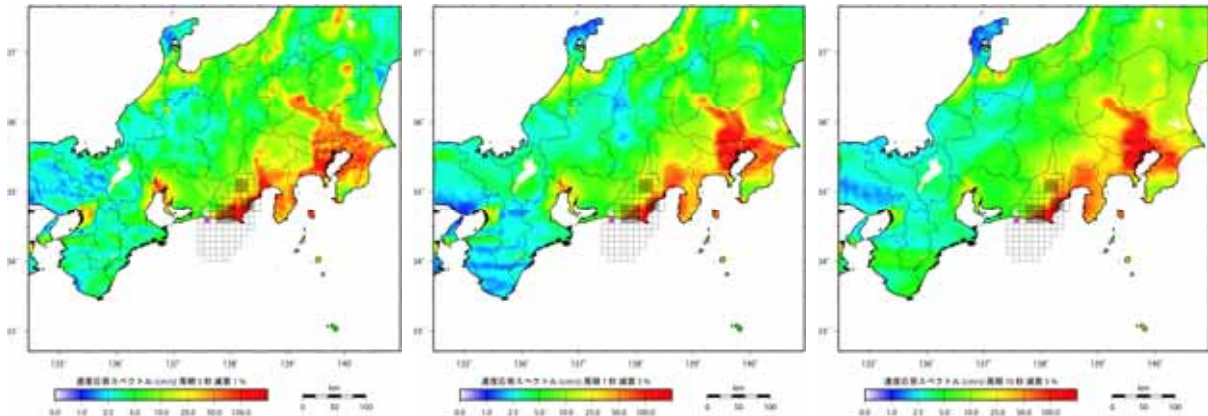


図 1. 想定東海地震の長周期地震動予測地図。

速度応答スペクトル周期 5 秒、7 秒、10 秒の振幅分布。減衰定数 5%。

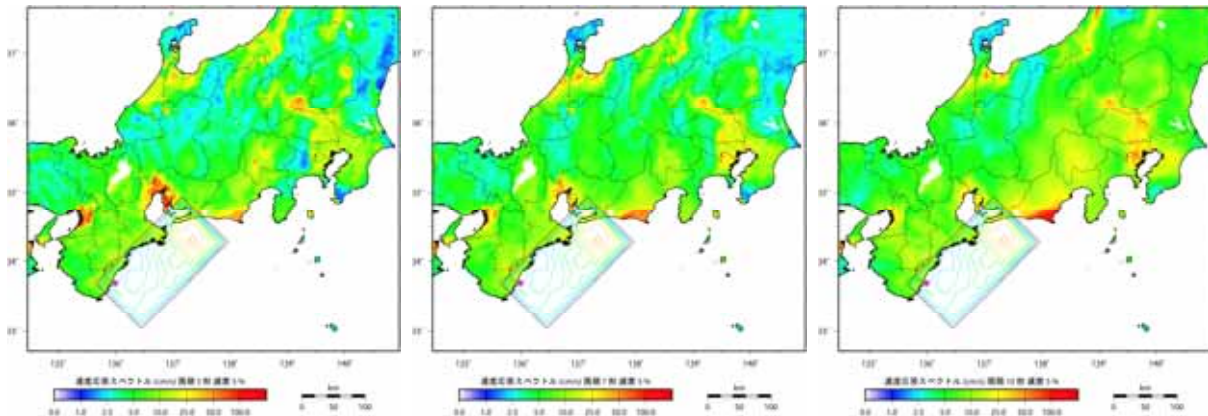


図 2. 東南海地震の長周期地震動予測地図。

速度応答スペクトル周期 5 秒、7 秒、10 秒の振幅分布。減衰定数 5%。

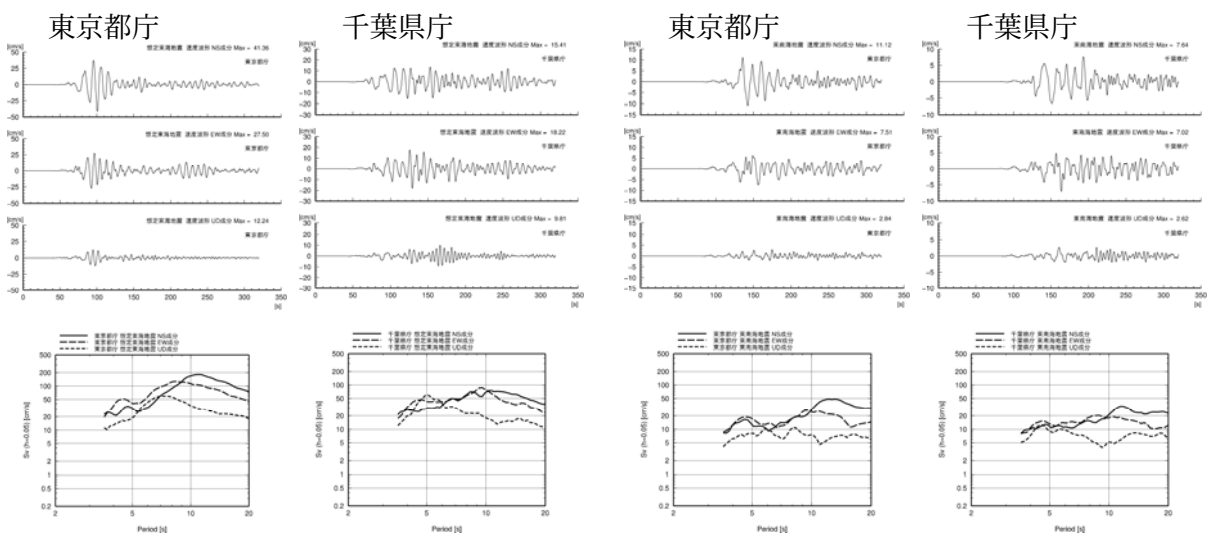


図 3. 想定東海地震による長周期地震動。

左：東京都庁。右：千葉県庁。

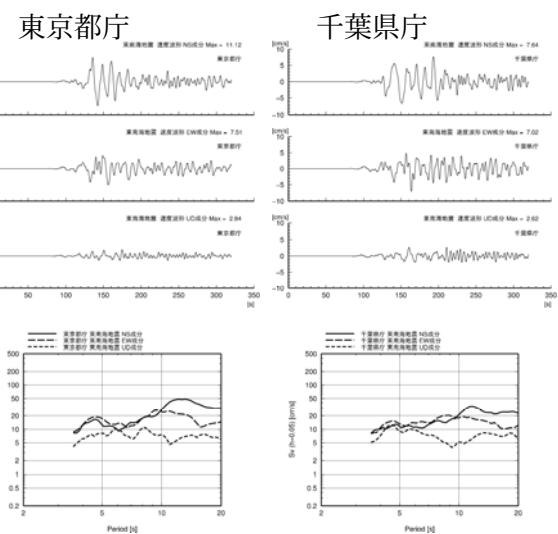


図 4. 東南海地震による長周期地震動。

左：東京都庁。右：千葉県庁。